

Tokyo Docs 2024

Tokyo
Docs

会 期：2024年11月5日（火）～7日（木）
会 場：あうるすぽっと
主 催：（特非）Tokyo Docs
共 催：（一社）全日本テレビ番組製作社連盟
後 援：総務省／経済産業省／東京都／豊島区／独国際交流基金／
日本放送協会（NHK）／（一社）日本民間放送連盟（民放連）／
（特非）放送批評懇談会／（一社）放送人の会／
（一社）全国地域映像団体協議会（全映協）／
（公社）映像文化製作者連盟（映文連）
対 象：放送関係者、一般、学生など
公式サイト URL：https://tokyodocs.jp/

総来場者数（参加数）：400人
出展参加国と地域数：12の国と地域
バイヤー数：35人
内 訳：（国内バイヤー：11人 海外バイヤー：24人）
商談件数：480件

■開催内容

14回目を迎えた Tokyo Docs は、11月5日（火）～7日（木）の期間で、池袋のあうるすぽっとを会場に開催。会場には3日間延べ400名の参加者が来場し、そのうち海外ゲストは12か国地域から24名来日した。

11月5日～6日には、ピッチングセッションを行った。今年は日本から8本、アジアから9本が参加し、15分の持ち時間で、会場のゲストを前に自分のプロジェクトについて説明した。なお、冒頭7分は企画説明と企画内容を紹介するVTR（トレーラー）の上映、後半8分は会場のゲストとのQAセッションという構成になっている。11月7日には、短編ドキュメンタリーのピッチ「ショート・ドキュメンタリー・ショーケース」を実施した。今年は4作品の選りすぐりの短編がピッチされた。

商談に関しては、従前の個別ミーティングに代わりラウンドテーブルを開催した。ラウンドテーブルとは、ゲストと提案者が数名同じテーブルに座り、情報共有しながら、自分の企画内容をゲストにプレゼンして企画成立のカギを探すための重要なネットワーキングの場となる。ミーティング件数は例年200件だが、今年は全企画が全ゲストとミーティングができたので、480件以上のミーティングが成立した。

11月5日と6日には、Tokyo Docs 発の完成作品の上映にも力を入れた。5日は、Tokyo Docs 2020にピッチした奥間勝也監督の「骨を掘る男（2024年／フランス・日本／115分）」の上映とトークセッション、6日には、短編ドキュメンタリー5作品を上映した。

イベントに参加した製作者のためのワークショップの開催も行った。ラインナップは、11月5日：プロジェクトの資金調達と配給方法を学ぶ「成功するセールス」、11月6日：短編作品におけるグローバルマーケットの現在地を解説した「ショート・ドキュメンタリーの現状」、11月7日：ピッチングセッション後取るべき次のステップや、国際共同制作やグローバルな展開への道をどのように切り拓いていくかを解説した「ピッチングセッション後の進め方」。

イベント前には、ピッチ者を対象にした、デンマークのドキュメンタリスト Ove Jensen 氏による集中トレーニングも実施した。引き続き、国際クリエイター育成事業とピッチングを实践する場の両輪で Tokyo Docs を継続開催していきたい。



ピッチングセッション



ラウンドテーブル



上映会



ワークショップ

■ 2024年度の新規取り組みとその成果・特色など

今年の特徴としては、国際都市を掲げる豊島区と連携した。その一環として、区から会場の提供、豊島区民への積極的な参加の呼びかけなどを行った。来年はさらに連携を深めることを検討している。もうひとつは、日本の放送局や製作会社の持っている企画を海外ゲストに向けて再提案する場「WIP (Work-in Progress breakfast meeting)」を実施。海外ゲスト来日の機会を生かし、さらなる日本の企画が海外展開する仕組みづくりに取り組んだ。さらには、海外派遣賞の枠を増設することで、受賞した企画が海外ピッチに立てるきっかけづくりを支援することとした。派遣先としては、Sunny Side of the Doc 賞（フランスのマーケット）、DocedgeKolkata（インドの映画祭）に加え、新たに Al Jazeera Documentary（カタール：企画への出資、成立後アルジャジーラで放送）、In-Docs（インドネシア映画祭）を追加した。

■ 他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

- ・ Sunny Side of the Doc 賞（フランスのマーケット）、DocedgeKolkata（インドの映画祭）に加え、新たに Al Jazeera Documentary（カタール：企画への出資、成立後アルジャジーラで放送）、In-Docs（インドネシア映画祭）と連携し、受賞した製作者を派遣することになった。
- ・ LINE ヤフー傘下の Yahoo ニュースドキュメンタリーと連携して、ショート・ドキュメンタリー・ショーケースを開催した。ショート・ドキュメンタリー製作者に応募を呼びかけ、優れた作品を Yahoo ニュースドキュメンタリーで配信するなど、連携の成果が期待される。



2025 年受賞者